

B—21 合成繊維織物の洗浄に関する研究  
第2報 糊付け効果について

長崎大教育 ○石崎 ダイ  
柴田 昌代  
県立北松園芸高 石崎 律子

1. 前報に引続き各糊付布の物性の変化を検討した結果、剛軟度の面より処理濃度に問題のあることを見出したので、糊液の粘度より処理濃度を設定し、各処理布の汚染性、洗浄性、剛軟度、耐光性を検討した。

2. 試布は F<sub>1</sub> ポリエステル、F<sub>2</sub> アクリル系、F<sub>3</sub> ナイロン、F<sub>4</sub> アセテート。糊は D<sub>1</sub> CMC、D<sub>2</sub> デキストリン、D<sub>3</sub> PVA、D<sub>4</sub> キトサン。剛軟度は 45° カンチレバ法により、粘度はオストワルド粘度計を用い相対粘度を求めた。耐光性はフェードテスターにより 20, 40, 60, 100, 200, 400, 時間照射した。糊付法、汚染法、洗浄法は前報と同様である。

3. 剛軟度は F<sub>1</sub>, F<sub>4</sub> のアクリル糊の 0.05%, 0.1% と、F<sub>2</sub> の 0.3% 処理が原布と同程度で他の糊はいずれも剛度が大、ことに CMC で処理したものはその傾向が著しい。糊液の粘性はアクリル糊が最低で、他は 0.01%, CMC では 0.001% がアクリルの 0.05, 0.1% に匹敵する。耐光性は原布、精練布、糊付布間に差はみられず、F<sub>1</sub>, F<sub>2</sub> は時間の経過と共に白度が低下するが、F<sub>3</sub>, F<sub>4</sub> では却って白度が上昇した。0.01%, 0.03%, 0.04% 糊付布の防汚性は原布より著しく向上し、糊付の効果が認められたが、洗浄性は必ずしも良好とはいえない。但し D<sub>1</sub>, D<sub>2</sub> 処理布は効果がみとめられる。なお D<sub>4</sub> の糊付法には改善を要する点があるので更に今後検討する。